

第17回廃炉・汚染水対策現地調整会議の概要

1. 日程

日時:平成27年1月30日(金) 11:30~14:00

場所:いわきワシントンホテル 3階 アゼリアA

2. メンバー

政府: (議長):高木原子力災害現地対策本部長(経済産業副大臣)

原子力災害現地対策本部:後藤副本部長

復興庁:豊島次長(福島復興局)

文部科学省:西田放射性廃棄物企画室長

農林水産省:安岡研究調整官(代理)

農林水産省水産庁:中津研究指導課長

国土交通省:五十嵐河川環境課長(代理)

環境省:二村水環境課長

廃炉・汚染水対策チーム:糟谷事務局長補佐、吉田事務局長補佐、江口対策官、
豊口企画官

廃炉・汚染水対策現地事務所:野田所長、木野参事官、遠藤調整官、
岡山対策官、小野対策官

原子力損害賠償・廃炉等支援機構:松永所長、有賀審議役

東京電力:石崎福島復興本社代表、増田廃炉推進カンパニープレジデント、有馬バイスプレジデ
ント、白川福島第一原子力発電所ユニット所長

福島県(オブザーバー):玉根生活環境部次長

規制当局(原子力規制庁):山田審議官、持丸地域統括管理官

3. 結果概要

(1) 議長冒頭挨拶

○新しい年を迎え気持ちも新たに引き締めて、本年も一丸となって必要な取組を効率よく着実に進めてまいりたい。

○そのような矢先に、先日不幸なことに1F及び2Fの構内において立て続けに痛ましい死亡事故が発生してしまった。り災者の方には謹んでお悔やみを申し上げたい。原因の究明を今後慎重かつ確実に行うべきであり、同じような災害を撲滅するために尽力する必要がある。

○本日はこれらの死亡事故を含め、福島第一原発等で発生した人身事故等を踏まえた工事全

体にかかわる安全対策について報告いただきたい。

- 1号機原子炉建屋カバーの解体工事については、建屋カバー内外の風量評価の結果等について報告いただきたい。
- 多核種除去装置（ALPS）については、既設、増設、高性能ALPSの稼働状況、処理の進捗状況について報告いただきたい。
- 汚染水浄化処理については、3月末までを目標に進めてきたが、2ヶ月程度、遅延することなので、その状況や今後の見通しについて報告をいただきたい。
- タンク設置等については、タンクの建設進捗状況、水バランスシミュレーション等について報告をいただきたい。浄化処理が遅れているからといって、処理済み水を受け入れるタンクの設置も遅れて良いということではないので、タンク建設の進捗を確認する予定である。
- 海水配管トレンチからの汚染水除去については、充填や汚染水除去の状況等について報告をいただきたい。
- その他、サブドレン、凍土遮水壁、滞留水移送装置、フェーシング、港湾の海底土被覆や港湾内魚類の駆除、等についても進捗状況の報告をいただきたい。
- 本日も、活発な御意見、徹底した議論をお願いしたい。

(2) 会議概要(主な指摘事項)

議題2

<資料1-2>

- 飛散問題について、南相馬での27年産の米作付けは時期尚早と決議がされている。昨年の米の汚染原因がわかっていないなかで、まだ身の回りに汚染源があるのではないかと不安があり、国に対して引き続き調査して欲しいとの声がある。農水省のみでは、何が稲に付着しどこから飛んできたか知見がないので関係省庁には協力をお願いしたい。
- 1号機建屋カバーの解体スケジュールを次回に示すこと。

議題3

<資料1-3>

- 作業員の死亡事故が発生してしまったことについては、決起大会の開催といった精神論のみならず、重大事故に繋がるヒヤリハット事例の総点検と水平展開を行い、原因究明

と対策にしっかりと取り組むべき。

- 安全対策については東電において作業が手順通りに行われているかの点検を行う等、強化・徹底すること。国も引き続き東電に対し指導を行うこと。
- 作業員の事故対策には全面マスクの着用不要エリアの拡大など作業環境の改善も重要。
- 事故の発生原因には手順書が不十分であったことが考えられる。第三者の目を活用して手順書の整備を進めるべき。
- 作業現場から改善につながるような仕組みを構築するとともに事業所全体に波及する仕組みを作るべき。
- 安全総点検で工事を一時とめているがその遅れを取り戻すために安全を疎かにするべきではない。
- 事故の原因究明、対策の実施について次回報告すること。
- 作業間の調整、事務手続きなどを効率的に行うことで、現場にしわよせすることのないようにするべき。
- 経営層と現場の認識にミスマッチが生じることもある。言い方一つで作業員のとらえ方が変わり混乱することもあるので、経営層はこれを認識して発信すること。
- 工程がきつくなっていることの背景は、基本設計などの発注者がわの仕事の遅れがあるのではないかと。現場へしわ寄せしてはならない。

議題 4

<資料 2 >

- 浄化处理水の完了時期については、見込みを定量的に示すこと。タンクの設置も遅れないように。
- 昨年12月のALPS処理水の漏えいについても対策をどのようにとったか次回報告すること。
- 陸側遮水壁、陸側および山側の貫通工事について認可が工事のネックになっている。東電側の検討準備を含め、速やかに認可が得られるよう努力すること。
- サブドレンの実施に当たっては海洋モニタリング装置が動いていることは安心材料になる。海洋モニタの本格運用を早められるように取り組むこと。
- 港湾内の魚が外に出てくると試験操業に大きな影響がでる。駆除対策を徹底して行って欲しい。

(3) 次回以降の日程

○次回は2月開催。詳細の日程は決定次第、事務方より連絡。

(以上)